

「北方四島を見つめる」

立命館慶祥中学校 二年 佐野 果淑

北方領土問題とは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の帰属問題のことです。1945年8月から9月にかけて旧ソ連軍が北方四島を不法占拠して以来、私たち日本人は住むことができなくなってしまいました。現在、四島交流などの特別な場合しか渡航できません。そしてロシア政府は、2007年から2015年までの「クリル諸島社会経済発展プログラム」を策定しました。これは、千島漁業開発、エネルギー問題緩和、輸送・社会インフラ建設、住民の生活水準向上をうたうものです。これに基づきインフラなどを進めた結果、北方四島に住む人々の平均所得が増え、人口も増加傾向にあります。北方四島は、日本の固有の領土だと私は思っています。なので、このようにロシアが政策を進めると、四島が日本に戻ることは、今よりさらに難しくなると思うので、一刻も早く解決策が見つかることを望んでいます。

北方四島の解決は本当に難しいことだと思います。もちろん、四島すべてを日本に返すというのが一番簡単かもしれませんが、しかしロシアがこれに納得するとは思えません。もし仮に、ロシアが納得したら、現在、四島に住んでいるロシアの人々はどうなるのでしょうか。旧ソ連が不法占拠した当時の戦争に関わっていた人々ではないのです。しかも、現在住んでいる人々にとって四島は、生まれ育ったふるさとなのです。ある日突然、故郷を追われる。これは、かつて私たち日本人がされたことと同じです。私は、このことが、どんなに大変でつらいことなのか、痛いほどわかります。私の祖父も、択捉島の元島民なのです。なので私は、この問題をとても身近に感じています。最も良い解決策は、正直わかりません。しかし、私が考える最善の解決策は、北方四島をロシアの人も日本の人も、どちらの国の人でも住めるようにする、つまり共同地にするということです。どちらの国にも属さない、共同地にするというのが、やはりいちばん良い案だと私は思いました。共同地にすると、排他的経済水域などの問

題が生じるのはわかっています。その場合は、例えば海ならば、資源を取るためではなく、観光スポットにし、ロシアの人も日本の人も楽しめる場所にしたらいいいと思います。そして、四島に行くためのパスポートなどは、いらなと思います。国内に旅行に行く感覚でもいいので、北方四島を訪れる人が増えれば、四島でかつて起こったことについて学び、考えてくれる人も増えると思ったからです。決して、解決したからといって、北方四島で起こったことを忘れてほしくないのです。なので、四島それぞれに、かつて何が起こったのかを、展示するものをつくってほしいです。

北方領土問題は、解決するのはとても難しい問題です。すべての人が納得できる案は見つからないのかもしれませんが。しかし私は、これからも北方四島について学び、考えていきたいと思っています。